



国民の森林・国営林

森林ふれあい情報

平成21年9月

第12号

中部森林管理局木曽森林環境保全ふれあいセンター

〒399-0001 長野県木曽郡木曽町福島5471-1

TEL: 0264(22)2122 FAX: 0264(21)3151

E-mail: kiso-fureai@rinya.maff.go.jp

教職員を対象とした 森林・林業体験学習研修会

8月4日に木曽地区、8月5日に上伊那地区の小・中学校の先生方を対象とした森林・林業体験学習研修会を実施しました。

木曽地区においては午前中、温帯系と暖帯系が混生して生育している植物の観察、国宝、重要文化財等歴史的建造物の屋根葺きの材料として使われる檜皮について、木曽森林管理署南木曽支署に展示されている模型及び「木の文化を支える森づくり」として協定されている「檜皮の森」等で、ぶり縄を使用した木登りの実演をまじえながら檜皮葺の実態、採取方法等について学びました。



植物観察の様子（木曽地区）

午後は間伐の必要性、伐採方法等の説明をした後、ヒノキ人工林内での間伐作業を実施しました。

参加した先生方からは、「有意義な研修であり、全教職員が一度は参加すべきと感じた。」「説明を受けてから実際に間伐し、その必要性、効果等が実感でき実地体験の良さを感じた。」等の感想が聞かれました。

また、伊那地区においては午前中、間伐作業体験を、午後は手良小学校の校庭で森林環境教育の手法を学びました。

間伐では、かかり木となった伐倒木をチルホールやロープ、フェリングレバー等の道具を使い、苦労しながら伐倒、枝払い、玉切り、集積等の作業に汗を流していました。

森林環境教育の手法では、それぞれの歩幅を知り、歩幅と直角二等辺三角形を使用しての樹高調査、調査した木の胸高直径を測り、それぞれの数値を基に調査した木の炭素量調査、歩幅とシルバーコンパスを使用して目的地まで行く手法等を学びました。



間伐の様子（伊那地区）

参加した先生方からは、「森林環境教育の手法は大変参考になった。早速授業に取り入れたい。」「自ら体験し知識を高め、山の管理の大切さを授業で教えていきたい。」等の感想が聞かれました。

「木曽川・森づくり in 赤沢」

9月12日、木曽郡上松町の赤沢自然休養林内において、木曽川上・下流域の住民、森林ボランティア団体及びスタッフ総勢六十数名が参加して、「木曽川・森づくり in 赤沢」を実施しました。

当日は、あいにくの雨模様となり、予定していた森林整備体験（間伐）は取りやめ、自然観察のみを行いました。



森林散策の様子

森林鉄道に乗車した後4班に分かれ、赤沢自然休養林内をNPO法人やまぼうし自然学校及びNPO法人木曽ひのきの森のインストラクターから木曽五木の見分け方、伊勢神宮御神木伐採跡地の説明などを受け、森林浴を楽しみました。

参加者からは、「森林整備ができなくて残念だった。」との声が多くありましたが、「木々には恵みの雨だった。葉も洗われ清く見えた。」「心に元気をもらった。」「来年も是非参加したい。」との声も聞かれました。

木曾駒ヶ岳植生復元事業

9月2日(水)木曾駒ヶ岳の頂上山荘横鞍部で、約200㎡にボランティアを含む総勢31名が協力し、登山道が広くなり高山植物が荒廃した箇所の中州のような形で繊維マットの敷設作業を実施しました。



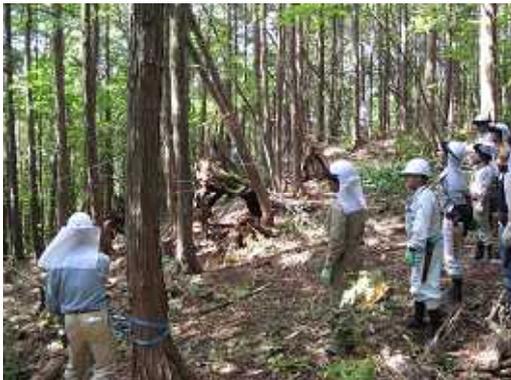
ボランティアによるマット敷設

当日の朝は、遠くに富士山も見られる雲一つ無い良い天気でしたが、現地について作業を始める頃からガスに覆われ、雨こそ降らないものの寒いコンディションの中、予定した時間内に全ての作業を終了することができました。

参加者からは、作業箇所の拡大、作業内容や成果についてもっと積極的なPRが必要ではないか等の意見が出されました。

森林保全管理講習

9月7日から9月25日までのうち10日間の日程で、長野県シルバー人材センター連合会が主催する森林保全管理講習が木曾町を主会場として行われました。この森林保全管理講習は、シルバー人材センターとしては初めての内容であり、企画立案する段階から当ふれあいセンター等にも内容、講師派遣等の相談があり、実施に当たっては森林管理、人工林と天然生林の管理、安全教育(梯子・安全带)及び刃物(鉋・鎌)の研ぎ方をふれあいセンターで2日間、山づくりについて、収穫調査実技、間伐実習(鋸の使い方、かかり木の処理方法)及び除伐実技を木曾森林管理署で2日間講師等をつとめました。



チルホールを使用しているかかり木処理

対象は57歳から68歳で働く意欲のある者、定員30名募集のところ、木曾郡内在住の方を中心に25名の参加がありました。

4日間を通して、実際に体験をしていただく実技を中心に講習内容を組み立て、梯子及び安全带を使用している枝打、チルホールを使用しているかかり木処理、刃物の研磨等初めて体験する方も多かったです。より有利な再就職に役立てようと皆さん真剣に取り組んでいました。

愛知県三好町

「友好の森ふれあいツアー」で間伐体験

愛知県三好町は、「町の発展の礎となっている愛知用水(木曾川)の水源保全は水源地だけでなく受益地の役割でもある。」との認識から、木曾川上流域の木曾町三岳、御嶽山麓の民有林及び国有林の一部(面積約38ha)を購入し、「三好町友好の森」として設定整備しています。

9月5日、友好の森において、森林や水源地の大切さ、環境保全について学ぶ目的で間伐作業を体験する「ふれあいツアー」を開催し、募集した親子連れなど40名が参加しました。一方、上流域の木曾町三岳からはみどりの少年団の子供たちや指導者、町関係者など40名が参加して、交流を図りました。

「ふれあいツアー」は平成15年度から始まり、今年で7回目となります。当ふれあいセンターも木曾森林管理署などとともに技術指導に支援・協力しています。



職員による間伐作業の実演指導

当日は、晴天に恵まれ清々しい空気の中、はじめに、木曾森林管理署職員が間伐の作業手順や安全作業への実演指導を行い、その後、参加者は9班に分かれ各指導員の下、2時間程の間伐作業を体験し気持ちの良い汗を流しました。中には間伐木で参加記念のお土産づくりをする親子も現れるなど、楽しい一日を過ごしていました。